

令和4年度 松田町総合計画審議会<第4回>議事要旨

日 時：令和5年2月17日(金) 14時30分から16時40分まで

場 所：松田町役場 4階 大会議室

出席者：11名

石川委員、平原委員、中津川委員、吉崎委員、武尾委員、秋田谷委員、鈴木委員、古館委員、吉川委員、小池委員、守屋委員（名簿順）

町：本山町長、田代副町長、高橋参事兼まちづくり課長、鈴木参事兼政策推進課長兼定住少子化担当室長、早野総務課長兼安全防災担当室長、鎌田安全防災担当室専任主幹、山岸税務課長、遠藤教育課長、石渡子育て健康課長、椎野福祉課長、渋谷環境上下水道課長、柳澤観光経済課長、川本町民課長、石井議会事務局長

事務局：政策推進課（鍵和田、近野、金谷）、ランドブレイン（石村、稲葉、安武）

会次第

1. 会長あいさつ
2. 町長あいさつ
3. 議事録署名人の選出
4. 議事
 - (1) 前回審議会までの振り返り
 - (2) パブリックコメントの募集結果について
 - (3) 松田町第6次総合計画 基本計画見直し及び後期まちづくりアクションプログラム策定（案）について
5. 答申
6. その他
7. 閉会

資料

- 1：松田町第6次総合計画 基本計画見直し及び後期まちづくりアクションプログラム策定参考資料
 - 2：パブリックコメントの募集結果について（案）
 - 3：松田町第6次総合計画 基本計画見直し及び後期まちづくりアクションプログラム策定（案）
 - 4：財政推計
- 参考資料1：令和4年度第3回総合計画審議会議事要旨
参考資料2：第3回まつだ子どもカフェ実施概要報告書
参考資料3：子育て世帯への意見募集実施概要報告書

質疑記録

■議事（1）前回審議会までの振り返りについて

秋田谷委員：

松田町の人口は平成7年の13,270人をピークに減少している。国の推計で2040年に町が消滅するとも言われている。あと17年しかない。そのことを行政、町民が真剣に捉えているのか心配。町長の考えはどうか。

町長：

人口動態には自然増減、社会増減がある。社会増を目指すべきと考える。行政としては、若い世代に向けて、住む場所の確保、教育や保育の充実、この2つに力を入れてきた。また、今住んでいる町民に向けては、商店街の振興、寄地区の問題などにも取り組んできた。

平成25年の推計では5年後の人口は7千人とされていたが、間もなく出る平成30年の実際の数値では多少改善されていると思う。1万人を確保するために町民に協力していただきたいことはたくさんある。行政だけでできることではない。

令和5年度も、アンケートをベースに交通や公園などの整備を進めている。足りない部分は町民の意見を聞きながら進めていきたい。買い物については商工会や町民との話し合いを進めたい。寄地区の教育については協議会を立ち上げたい。松田山の活性化についても地権者や町民の意見を聞きながら進めるための協議会が必要。行政だけではなく、町民の意見を聞きながら、来年度も松田町の魅力向上と、住む場所の確保などを進めていきたい。現状、宅地化が少しずつ進んできている。生産緑地の期限切れを機に協力いただくなどしている。インフラ整備も必要。住む場所、保育の場の整備を進めながら、既存の全てのことをやっ払いこうと考えている。

このところ人口減少が加速している。社会増減として増えていた賃貸居住の単身者が、テレワークで都心通勤圏から離れて行く傾向にある。定住人口を増やすための宅地化などで軌道修正をしていきたい。

秋田谷委員：

2040年に消滅すると言われている現状をもっと町民に知らせ、皆で真剣に取り組むべき。

古館会長：

人口減少の加速については私も懸念している。現状を町民に伝えるための施策が必要。我々もそれぞれの活動の中で問題意識を持って取り組んでいきたい。

守屋委員：

人口の増減にはさまざまな要因が絡んでおり、町だけでは対処できない。居住地選択の意識も変わった。ネット社会の中で商工振興会も飲食店組合もそれぞれに取り組んできたとは思いますが、商工業の継続的な発展に向けた取り組みは充分だったのか、飲食店が少ない問題はどうか。

私が一番残念に思うのは町民の関心が薄いこと。懇談会などの参加者も増えない。町民自身が行動しなければ、人口減少に立ち向かえない。議会、行政、町民のトライアングルが同じ方向へ足並みを揃えていくことが大事。人口減少の要因や背景を皆が理解して積極的に取り組まなければこの問題は解決できない。

逆に、スリム化によってできることもあるはず。人口減少に伴って行政経費が減った分は、新たな行政サービスの創設などに向けられる。ピンチはチャンス。ただ結果を悲観的に捉えるのではなく、皆がそういう意識で一丸となって取り組むべき。

小池委員：

この会議自体の最終目的は人口減少を食い止めることだと思う。総合戦略会議の方では、人口ビジョンや少子化対策などを命題としている。詳細はHPでも見られるが、この場でその報告を聞ければ、ある程度の状況が皆さんにもわかると思うので、お願いしたい。

古館会長：

実は、総合戦略審議会でも会長をしている。こちらとは違うKPIなどを用意して調べている。総合計画は全体的だが、こちらは「まち・ひと・しごと」のまちづくりにポイントを合わせ、人口問題などにもフォーカスしている。総合計画とも非常にリンクしている。

総合戦略について事務局より簡単に説明してもらい、それで議論を打ち切りたい。

事務局：

総合戦略審議会を約2週間前に開催した。総合戦略には「2040年に1万人」という人口ビジョンを位置付けている。それをこちらの基本構想にも反映している。2040年に1万人を確保するための具体的な手段として各事業等があるが、まずは令和3年度の事業について、具体的なKPIに対して実績はどうだったかという評価を行った。その後、人口の現状把握ということで、長期の人口の動向について事務局より報告した。

古館会長：

HPに掲載されているのは、その評価の内容になる。総合戦略では、有識者の方々や銀行、JR、小田急などの代表者を交えてKPIに基づく評価を行うとともに、総合的なまちづくりに関して、人口問題も含めて議論している。具体的な問題については、むしろこちらで議論していることの方が多いと思う。

小池委員：

この計画を100%達成すれば人口減少も収まるという意識で、皆で一生涯懸命取り組みたい。

古館会長：

後期アクションプログラムの特徴は「チルドレンファースト」。子どもをいかにして大切に育てながら教育していくか。前期との大きな違いであり、そこを認識して欲しい。

その他、何かあるか。それでは、振り返りについてはこれで終わりたい。

■議事（2）パブリックコメントの募集結果について

古館会長：

パブリックコメントが1人というのはさびしいが、やはりこの方も人口減少を心配している。もっと多くの人に問題意識を持って欲しい。その他、意見等はないか。

守屋委員：

自治会でも取り上げたが、文章が固い、資料が厚いなど、なかなか読んでもらえない。広く理解を求める難しさを痛感した。いくつかピックアップして「〇〇についてはどう思うか」と

絞る工夫もしたが、残念ながらあるべき姿には至らなかった。パブリックコメントの求め方については、意見の出やすい方法を再度検討して欲しい。

石川委員：

いきなり丸投げで「どうですか？」と聞かれても抵抗がある。アンケートなどでも、基礎知識なしでは答えにくい場合が多い。町が重点的に進めたいものに絞って聞くなど、工夫が必要。

中津川委員：

概要版だけで意見を求めるという方法を提案されているが、全体に対して求めた意見でなければ、パブリックコメントとして成立したことにならないのではないのか。

事務局：

パブリックコメントの制度上、こちらから「全体の中のここだけ」と絞るのは難しい。ただし、見ていただけないのでは意味がない。自治会長の会議でも同様の意見が出たため、今は、まちが一番意見を求めたい部分はこの辺りだとわかる資料を渡すようにしている。だからといって、他の意見を拒否するものではない。わかりやすくなるよう工夫していきたい。

吉崎委員：

子育て世帯などは「総合計画」や「パブリックコメント」などの言葉に馴染みがない。総合計画の審議会自体も、一般には理解を得られていないと思う。私もはじめは「策定」がわからずとまどった。行政用語の説明から始まるような、敷居を下げた表現から入れると良い。特に審議会の委員をお願いする際は、会議の中身と重要性をわかりやすい言葉で伝えられると良い。

古館会長：

パブリックコメントの趣旨も踏まえつつ、わかりやすい表現などを工夫して欲しい。

■議事（3）松田町第6次総合計画 基本計画見直し及び後期まちづくりアクションプログラム策定（案）について、財政推計について

鈴木副会長：

財政推計に関連して、ふるさと納税の収入と支出について聞きたい。収支は黒字なのか。

参事兼政策推進課長兼定住少子化担当室長：

令和3年度ベースで寄附額は約1億円であり、うち半分は委託料として出ていく。町民から町外への寄付が約2千万円あるため、松田町に残るのは実質3千万円となる。その辺りを踏まえて推計した。

守屋委員：

事務局の説明については、出来るだけ資料にして配布していただきたい。

歳出の人件費について、令和7年度と8年度では約1600万円の減額となっているが、職員数の削減を見込んでいるのか。

総務課長兼安全防災担当室長：

職員削減ではない。その年度に定年の職員がいるため、人件費が減る見通しである。

守屋委員：

今、民間企業では人件費を大幅に改善し、優秀な人材の確保を競っている。行政でも既存職

員の待遇改善や初任給の改善などに取り組み、優秀な人材を集めるべき。高齢化や生活保護世帯の増加など、今後は包括支援センターの業務負担が増える。ニーズに応えるための人員が必要。それぞれの地域が今抱える直近の課題に沿えるメリハリのある人員配置をして欲しい。

総務課長兼安全防災担当室長

職員の新規採用、優秀な人材の確保等については、町としてもしっかり検討していきたい。

町長：

松田町は交付税をもらっている町である。基準財政需要額という、「人口1万人なら予算規模はこれくらい」という枠が決まっていて、その中で、町の税収で足りない分を国が補填するという仕組み。人口が減れば財政需要も減る。限られた枠の中で、人件費も含めた予算配分をする。バランスは当然考慮するが、人件費を増やせば他の町民サービスを削ることになるということとは御承知おきいただきたい。

既存の職員はある程度保障されているとして、新規採用については、優秀かどうかの基準は難しいが、現状として募集をかけても誰も来ないという状況ではない。令和5年度からは福祉関係の専門職も増員する予定。確保が難しい人材を確保しながら体制を整えているところ。役場の人が多すぎるという意見もあるが、職員はいずれも必要に応じて配置されている。そのバランスは考えられている。いただいたご意見をよく承知し、今後も財政運営に目を光らせながら進めていきたい。

守屋委員：

財政がいろいろな配慮の上で均衡を保っていることは理解している。人材については適材適所で財源に応じた配置をして欲しい。

昨年、町長は「チルドレンファースト」を打ち出したが、ここへきて国もようやく子育て給付金の所得制限撤廃などに取り組み始めた。先見の明として敬意を表したい。

秋田谷委員：

財政推計を見ても、人口減少に対する心配が尽きない。3年から8年でも大きく下がっている。これがスパイラルで進んでいくと、やはり「消滅しますよ」となる。

町長：

令和3年度は、松田小学校の建設費約25億円が入っているため、特に多いということもある。

中津川委員：

資料3の全体的なことについて確認したい。SDGsだが、例えばP42とP46と比べると、P42の「1. 誰もが健康で～」にはSDGsの「1、2、3」が記載されているが、P46では「1、2、3、4、16、17」が記載されている。全体的にそうした箇所が散見されるので、もう少し精査して整合性をとった方が良い。

また、P43「5. 自然と共生し～」では、海のない松田町に「14 海の豊かさを守ろう」があって違和感がある。ゴールの下にある169のターゲットを読めば「海洋ゴミを減らしましょう」が陸地からのつながりだとわかるが、ここにゴールだけでは一般の人には伝わらない。松田町はSDGs未来都市に認定されて、SDGs未来都市計画が策定されている。それを見ると、施策ごとではなく取組ごとに、ゴールと、その下のターゲットが全部細かく書かれている

のでわかりやすい。マークだけでは意味がわからないので、SDGsの出てくる箇所には「14の1」のようにターゲットの番号まで書いて欲しい。そして巻末の資料編に、SDGsのゴールと関連するターゲットを全部入れてもらい、この一冊でわかるようにして欲しい。

事務局：

資料3のSDGsの不一致については、今回は基本構想の見直しをしないため、P42「第3章 施策の大綱」では、これまでに載せていたSDGsをそのまま引き継いでいる。一方、基本計画については、今回見直しするに当たり「SDGs未来都市」として何番が関わってくるかを所管課に再度確認し、適宜、番号の追加や削除をしている。そのため差が出ている。資料として、今回の基本計画で何番を追加したのかなどをわかるようにする工夫が必要だと思うので、そこは調整させていただきたい。

SDGsの17のゴールの説明についてはP33に載せている。ゴールの下のターゲットの説明は載せていないので、資料編に追加するなど事務局で検討したい。

中津川委員：

P157、新松田駅周辺の整備については「拡充」となった。既に報道されているが、4月からまちづくり課に「駅周辺事業推進担当室」が新設される。「担当室を新設して整備事業をさらに加速していく」というようなことを「方針・目標」の中に明記するよう検討いただきたい。

古館会長：

今の提案については事務局で検討して欲しい。その他はあるか。

このアクションプログラムについては前回から見ていただいている。議会への提出に向け、全体について承認をいただきたい。この内容でよろしいか。

全員：

異議なし。

古館会長：

承認いただいた。それでは、先ほどの提案については事務局で工夫、修正して欲しい。

今日は活発な意見をいただいた。議事は以上で終了とする。ここで、全体の意見を取りまとめた答申案を作成したい。委員間で議論を深めるため、事務局以外の職員には一旦退席をお願いし、協議が終り次第お戻りいただくということで協力いただきたい。

■答申

古館会長から本山町長へ答申

古館会長：

後期計画策定に向けた一つの節目となる。皆さんから何かあれば発言いただきたい。

中津川委員：

アクションプログラムの最後に「寄地区のまちづくり」があるが、このプログラムには「寄自然休養村」の文字が一つも出ていない。寄が「寄自然休養村」に指定されて今年で50年。栗拾いや芋掘りなどの観光農園からはじまり、今ではロウバイまつり、さくらまつりで2万人を

超す人出がある。なのに、ロウバイまつりのポスターにも出ていない。認識が希薄化しているのではないか。今、「寄自然休養村」の運営協議会の役員の人選をしているが、地域の人や町の職員ですら知らない人が結構いる。観光面でも、各計画の中でも、今ある寄のベースは自然休養村で、その中で農泊などいろいろと取り組んでいるのだということを前面に打ち出して欲しい。町として「寄自然休養村」を是非PRしていただきたい。

吉川委員：

計画に「チルドレンファースト」があるのがうれしい。子どもにやさしい＝保護者にもやさしいまちづくりであることが大事。保護者がやさしくならないと子どもたちは健やかに育っていかない。保育園として、今後も力を入れていきたい。町に相談しながら進めていきたいので、是非、行政にもそこをもう一度確認していただき、一緒にやっていただきたい。

平原委員：

私は小学校の評議委員なので「チルドレンファースト」がとても良いと思っている。同時に、防犯指導員でもあるので、「安全・安心のまちづくり」がどうしても頭から離れない。人口減少を防ぐ意味でも、今ある自治会ごとの差を減らし、何とか町全体で平均して防犯能力の意識を高めていけるよう、町を挙げて取り組んでいただきたい。

それと、寄地区の大寺橋の鉄筋は後半が遅れているので、なんとか上手く進めて欲しい。

武尾委員：

商工振興会としては、駅前開発をベースに支援していきたい。

個人的には、私は自治会の役員もやっていて、今、人口対策を考える核は自治会ではないかなと考えている。町単位では大きすぎるところを、自治会単位なら拾えるかもしれない。「役員のなり手が無い」や「活動が嫌だ」など、いっそ自治会の役をなくせば住民が増えるのではないかも考えている。そこはもう少しよく考えて、また皆さんにお伝えしたい。

町長：

「チルドレンファースト」というキーワードが「子どもだけ」という偏ったイメージで一人歩きしないように注意していきたい。独居高齢者が増えて災害時などに支えがいないという状況が進む中で、まずは子どもたちにスポットを当てて「子どもたち自身が住みたいまち」にしていき、その子どもたちが親世代になった時に「子どもの頃は良かったな、自分の子どもも松田町で育てたいな」という思いで帰って来てもらう。そうして昔ながらの二世帯、三世帯同居の暮らしを町に取り戻していこうという旗印が「チルドレンファースト」である。もしも、高齢者を切り捨てるようなイメージになっているとすれば、それは違うということ我々からも発信し、皆さんからも発信していただき、変な方向に捉えられないようにだけはお願したい。

守屋委員：

変化の時代は弱者にしわ寄せがくる。セーフティネットの届かない場所もある。是非、常に弱者救済の視点を持ち、何が起きて、何が一番影響が出ているか、情報をキャッチしてすぐに向上を目指すという「キャッチアンドアクション」を胸に刻んで政策執行をしていただきたい。

古館会長：

それでは、事務局にお願いしたい。

事務局：

本年度、4回に渡って委員の皆さんには慎重かつ活発な審議をいただき感謝する。事務局として至らない点もあり、様々な面で助けていただいた。新たなスタートに向けて、計画をしっかりと実行するのが我々行政の責務であるとともに、地域の町民や関係する方々、議会の皆様と一緒に取り組むのが最大のテーマであると考えている。今後ともよろしく願いたい。

■その他

事務局：

本日いただいた意見の反映及び今後冊子として校正していく中で軽微な修正等が入った場合には、事務局に一任いただきたい。また、本編の後ろに付く資料編については、古館会長と調整して作成を進めさせていただく。

今後は、来月初旬における議会全員協議会の報告及び議案の上程を予定している。万が一、町議会において修正等された場合、審議会で頂戴した意見や内容などとは違う方向性の話となれば、再度審議会で諮っていただく可能性がある。これまではなかったが、可能性の話としてお知らせする。

古館会長：

それでは最後に閉会の挨拶を鈴木副会長よりいただきたい。

鈴木副会長：

これまで4回の審議会では、本当に慎重な審議をいただき感謝している。これをもって第4回松田町総合計画審議会を閉会させていただく。本当にありがとうございました。

閉会